

#### IV. 適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

##### 【適正利用・エコツーリズム WG に関する特記事項】

本 WG は、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で 2010 年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催しています。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」です。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進しています。その基本原則は次のとおりです。

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
- 持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしています。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、WG として検討すべき課題の増加に伴い、専門家同士の意見交換が必要と判断したため、2018 年度から適正利用・エコツーリズム WG を単独開催しています。

##### 1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、検討が進められている 2 件の状況は以下のとおりです。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	知床羅臼町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして、2016 年の検討会議で 5 年間の試行を承認しました。</li> <li>● 2019 年度は計 20 人（ツアー催行 3 回）が参加しました。ツアー参加者に対するヒアリングの結果、羅臼昆布の産業文化や自然との共生の歴史について伝承するため、ツアーを継続するべきとの意見が目立ちました。</li> <li>● 2018 年度第 1 回検討会議で指摘されたツアー名称の不適合性については、2020 年度実施分から「知床岬</li> </ul>

		<p>の歴史は羅臼昆布にあり～知床岬 399 番地上陸ツアー～」とすることで合意しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019 年度第 1 回検討会議において、残る 2020～2021 年も継続することを明言しました。</li> <li>● ツアーの経営的持続可能性については引き続き検討が必要です。</li> </ul>
<p>厳冬期の知床五湖 エコツアー事業</p>	<p>知床斜里町 観光協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアーを実施しています。</li> <li>● 2019 年度は 2020 年 3 月 22 日までの実施を予定しており、2020 年 2 月 5 日現在、計 755 名（前年度比 111.5%）が参加しました。</li> <li>● ゲート管理により一般車両の進入は今後も防止可能とされました。</li> </ul>

## 2. 個別地域における取り組み状況と課題

### ○知床五湖における利用調整地区制度の運用

高架木道と地上遊歩道（ヒグマ活動期及び植生保護期）を運用しました。地上遊歩道の更なる利用の安定化や質の高い自然体験を提供するため、10 月 21 日～閉園までの自由利用期を植生保護期と変更することとして手続を進めています。

### ○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

2019 年度のカムイワッカ地区の利用者数は、マイカー利用者、シャトルバス乗車人数とも 10%程度増加しました。2021 年以降のマイカー規制のあり方については、知床五湖の混雑やカムイワッカ地区の利用のあり方、沿線道路沿いでの野生動物対策等、幌別以奥の交通アクセスの課題を総合的に検討して判断することとしています。

### ○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会において、知床海鳥 W E K や自然センターでの企画展、海鳥のモニタリングを実施しました。また、我孫子ジャパン・バード・フェスティバル等の知床外へのイベントにも積極的に参加し、広く PR を実施しました。知床ウトロ海のハンドブックの売上収入を海鳥及びその生息環境の保全活動と普及啓発活動に充てていますが、改訂も検討中です。

### 3. 適正利用・エコツーリズム WG での議論

適正利用・エコツーリズム WG では主に以下について議論しました。

#### ○長期モニタリングの評価について

- ・2018 年度に新設した項目「知床エコツーリズム戦略に基づいた管理や利用」をモニタリングするための評価手法を検討しました。
- ・評価項目Ⅶを適正に評価するための手法を検討しました。

#### ○新しい資源開発の動向について

- ・体験型観光の世界会議「アドベンチャーツーリズムワールドサミット」の2021年会場に北海道が内定した旨の報告を受け、適正利用の観点から、ガイド育成の充実や関係部局間の連携を求める意見が出ました。
- ・世界自然遺産を活用した観光推進について、北海道観光局において全国で商談会を行った旨の報告がありました。

### 4. 主な検討事項や今後の予定

#### ○検討会議

- ・知床エコツーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツーリズムの推進を図るため、来年度も2回程度開催予定です。
- ・ヒグマ対策連絡会議や野生動物観光促進事業、知床国立公園利用のあり方に関する会議についても、必要に応じて情報提供を継続し、知床のエコツーリズムの動向を共有します。

#### ○OWG

- ・長期モニタリング等について科学的助言を得るため、来年度も2回程度実施予定です。
- ・長期モニタリング計画第一期完了に向けて、モニタリング項目及び評価項目を適切に評価します。
- ・アドベンチャーツーリズム等の道内観光の推進について北海道等を中心に情報を共有し、民間関係者も含めた知床の適正な利用について検討します。